

国際経済環境研究分野 Department of International Environmental Economics

貿易と環境

International Trade and Environment

教授 佐竹 正夫

Professor
Masao Satake

Our department studies the issues on the relationship between international trade and environment such as eco-dumping, international trade of recycled products, Environmental Kuznets Curve, transfer of environmental technology and so on. My recent research is to analyze the effects of exports of recycled products like plastic bottles on the recycling system. I have been conducting this study with other researchers under the government sponsorship for three years.

学会・研究会活動

日本国際経済学会の定例関東部会（12月20日開催）において「循環資源の貿易とリサイクル・システム—PETボトルを事例として」と題して報告を行った。同学会では引き続き理事となり、機関誌『国際経済』の編集責任者となった。研究科内では、環境フロンティアの講演会と研究会を主催した。特に研究会はほぼ一月に一回のペースで、合計9回の研究会を開催した。（詳細は環境フロンティア講演会・研究会の記事を参照）

科研費プロジェクト

平成19年度からの3年間の科研費の萌芽研究「循環資源の貿易とリサイクル・システム」では、9月16日に研究会をコロキウム環境として公開で開催した。

発表者は、東田啓作（横浜市立大学）、斉藤崇（杏林大学）、中谷隼（東京大学、ゲスト）の3氏である。今後は、2009年の2月に理論モデルの研究会を、そして3月に最終の成果報告会を開催する予定である。この研究課題については、同様の関心のある研究者を誘って、今後も継続するつもりである。

研究成果

以前から学会などで報告してきた研究「自由貿易と環境保護—GATT20条をめぐる環境紛争の経済分析」が、青木健・馬田啓一編『貿易・開発と環境問題—国際環境政策の焦点—』（2008年9月刊行）に所収された。他に翻訳に加わったD.グリーンウエイ・C.ミルナー著『産業内貿易の経済学』が11月に刊行された。

教育活動

教育活動としては、地域環境・社会システム学コースの他に、ヒューマン・セキュリティ連携国際プログラム、高度環境政策・技術マネジメント人材養成ユニット及び環境フロンティア国際プログラムの教育に関わっている。特に環境フロンティア国際プログラムでは教育だけでなく運営にも関わっている。指導する学生は、2009年1月現在では、8名（後期5、前期2、研究生1）おり、内訳は一般2、社会人2、留学生4である。前期課程の2名の学生は環境フロンティアの入学生で、それぞれ10月と11月～12月にエコ・プラクティスの一環として、1月間、それぞれタイ国と中国に滞在した。後者の学生は国際協力機構（JICA）の研修事業を研究テーマとしているために、11月初めに北九州国際技術協力協会が実施している研修事業に学生、フロンティアの坂井教授、それに私の3名で3日間参加する機会を得た。



In Kitakyushu Eco-Town